2020年度　一般選抜中期日程/国際商学科　英語
出題の意図と解答の傾向

英語を実際に使用する能力が身についているかを見るために設問も全て英語とした。

Ⅰ（１６０点）

問１（１６点）

【解答例】

A. admitted　B. had　C. wept　D. reserved

【解答の傾向】

英文の内容の推移を正確に読み取り、適切な語彙・文法項目が記入できるかを問う問題。読解力、語彙文法能力の有無が解答に反映するものと思われる。

単語の選択問題であり、正解率は比較的高かった。

語彙の選択については、4問の選択肢が全て正解だった解答は1割程度であったが、3問正解は多かった。特に、Bの選択肢haveとDの選択肢reserveは正解率が非常に高く8割程度は正解であった。Aの選択肢admitは5割程度の正解率で、Cの選択肢weepも5割程度であった。Cの解答では、全く逆の意味合いになるlaughを選択していたものがかなりあった。

語尾変化では、have→had、reserve→reserved はほとんどの答案で正解であった。選択肢の方で正解率がそれほど高くなかった、admit→admittedとweep→weptの変化は8割から9割が誤っており、正解率は非常に低かった。単に語尾にedを付けたものが圧倒的に多かった。現在形のままや、進行形の語尾変化を解答としたものもあったが、僅かであった。

問２（１０点）

【解答例】

日本語がわかるアメリカ人は50人しかいないということ。

【解答の傾向】

Radioのcommentatorがmisinformedされたことがどのようなことであったか前の文章から正確に読み取れるかを問う問題。

およそ半数はほぼ正解であった。ただし、日本語→日本人、50人→15人・55人と勘違いしているものや、「日本語がわかる人を実際よりも少なく報道していた」など、理解はしていても人数を正確に記述できていない解答は減点した。

問３（３０点）

【解答例】

せいぜい簡単な日本語の新聞記事なら辞書の助けを借りて読めるが、日本語を一言も話すことはできないし、話された時には理解できないということ。

【解答の傾向】

these limitationsが指す内容を正確に読み取れるかを問う問題。limitationsと複数形になっていることから当時の筆者ができる日本語には複数の限界があることが見て取れる。英文自体はそれほど難しくないと思われる。

本文にある“the best I could do”のもつ意味合いが訳出できていない解答が多かった。また、単語“utter”の意味がとれずに「訳す」、「つぶやく」などとしている解答が多かった。さらには、文中の“did not understand it when it was spoken”の箇所を、「いつ話されたのか理解できない」とする誤答が多く見られた。

問４（２０点）

【解答例】

ただ日本語が学べるということがうれしかったから。

【解答の傾向】

太平洋戦争開戦直後であったにもかかわらず、軍に入隊して学びたかった日本語を学ぼうとしている筆者が感じたであろう気持ちが読み取れるかを問う問題。

正解はおよそ４割であった。「学ぶ意思があった」、「学ぶことを目的にしていた」、「学ぶつもりであった」といった解答は減点した。母や叔母たちに見送られ、自身の安全に気遣いしてくれたことに幸せを感じたという直前の文に引きずられ、「母が心配してくれたことがうれしかった」、「見送りに来てくれて幸せだった」という解答が散見（1～2 割）された。

問５（２５点）

【解答例】

飛行機の上で知らない人と話すことがよりまれなのは、飛んでいるという恐怖心を完全にはなくせないからではないかと思う。

【解答の傾向】

それほど長くない文章であるが文自体の難易度は比較的高いかも知れない。I wonder whether、比較級は一体何と比較しているのか、because 以下は何の理由を表しているのか、never entirely という部分否定をどのように訳出するかなどを問う問題。

「完全にはなくせない」という部分否定が訳出できず、entirely を全体としてぼやかしているものや、「なくすことは決してない」など逆の意味に訳出する解答が散見された。また、「まれなのは、～であるから」というように理由を示す形に訳せていない解答、何の恐怖（心）なのかの意味がとれていない解答などが散見された。さらには、wonder を「ではないかと思う」と訳出すべきところ、if とセットでイディオムとして記憶しているためか、～「と不思議に思う」のように意味を強く訳出するものや、また、そもそも訳出しない解答も散見された。

問６（２０点）

【解答例】

アリゾナに着いて初めて再び旅の喜びを感じた。

【解答の傾向】

この文では、時を表す副詞節が文頭に来て強調されている文であり、主節では did I というように倒置が起こっている。構文としては比較的よく見る表現であるが、この形がうまく理解できているか問う問題。

冒頭の“<u>Not until</u> the train reached Arizona did I” の意味がとれていない解答が多かった。「列車がアリゾナに到着して初めて」とするところ、「アリゾナに近づいて」「アリゾナに

着こうとしたとき」などとする誤訳が多く見られた。また、単語“pleasure”の意味がとれずに、「圧」、「重圧」、「緊張」とする誤訳が多かった。

問７（１４点）
【解答】
２月だというのにアリゾナでは既に完全に春の陽気だったから。

【解答の傾向】
「どうして人々はニューヨークに住むのだろう」と自問したとあるが、全文にこの理由が明らかにし示してある。この理由を正確に読み取れるか問うた問題。「ニューヨークは都会であって住むことに適していないから」、「アリゾナの空気が澄んでいて気持ちよかったから」などのように直接的な理由とならないものを指摘する答案が多かった。何よりも筆者の汽車は、南に下っていくにつれ、寒さのニューヨークから春の日差しのアリゾナに入っていくことに気付いて欲しい。

問８（２５点）
【解答例】
it did not occur to me that some would also become my friends for life.

【解答の傾向】
比較的教科書などでよく見る「～という考えが誰々に浮かぶ」という表現を英語でうまく使えるか、時制の一致で will が would に変ることに気づいているか、「生涯の友人」をどのように表現するかを問う問題。

I did not think, I did not know, I don’t think, didn’t have an idea, I didn’t think the idea というような表現が多く見られた。また「生涯の友人」は my forever friends, my friends forever というように forever を形容詞的に使用する文も多く見られた。さらに「また」を again として文末に置くものも多くいた。時制の一致がうまくできていたものは 3 割程度であろうか。

II （４０点）
【出題の意図】
この問題を通じて受験生は意見や理由を明確に述べられるかどうか、限られた時間内にアイデアを十分に展開させられるかどうか、段落を論理的に構成できるかどうか、また受験生の英語が十分に通じるかどうかを見た。「内容」、「構成」、「言語力」を中心に、40 点満点で解答を総合的に採点した。

「内容」については、意見や理由、詳細を十分に説明し、論理的に展開させているかを中心に評価した。「構成」については、論理的展開になっているか、そうさせるための“discourse markers”や接続詞が正確に尚且つ効果的に使われているかどうかを中心に評価した。「言語力」については、解答を読んで意味が理解できるかどうか、文法・語彙・綴り・句読点が正確に適切に使われているかどうか、受験生は難しい言い回しや語彙を使おうとしているかどうか、使った場合はどのくらい正確に使えたかなどを中心に評価を行った。

【解答の傾向】

まず、全体の構成については、導入部分・本文・結論という構成で、また“discourse markers”等を用いて、解答を論理的に構成しようとした解答が総合的に見て比較的に多かった。しかし、“discourse markers”等を間違って使用した解答も多かった。また、中には意見を解答のはじめに（導入部分にあたるところ）ではなく、最後の文章ではじめて明確にする解答もあった。

内容については、時間制限があることにも関わらず意見を深く説明しようとした解答は見られた。中にはとても上手に説明を展開させた解答もあった。しかし、理由とそれを説明するための詳細が合致していない、ややずれている解答は少し目立ってしまった。面白いアイデアを持っているものの、それを論理的な流れで十分に説明ができないという受験者はいた。

言語力について、不満が残る解答が多かった。時制の間違いが大変目立ってしまった。また、スペルミスや不適切な語彙の使い方も多くみられた。その中、“natives”や“Native Americans”の使い方が特に気になった。“Native speaker (of English)”（英語を母語とする人、母語話者）が言いたかったであろう。日本語では「ネイティブ・スピーカー」を省略して「ネイティブ」、「英語のネイティブ」を俗語的な表現として会話の中で使うこともあるが、英語では“natives”は殆どの場合「先住民たち」という意味になり、“Native American”は「先住アメリカ人」という意味になる。外来語とその原語の違いをしっかり理解する必要がある。